

日本語サークル ボランティアさん紹介

現在、YICで日本語サークル活動をしている人は約100名。外国人市民への日本語学習支援ボランティア活動を始めた「きっかけ」や「やりがい」などを紹介します。

四日市国際交流センター(YIC)の前身の四日市国際交流協会のボランティアに参加させていただいたのは、1996年4月なので今年で26年になります。

参加したきっかけは、海外に設立した合併会社に赴任して、仕事を始めて帰国までの間、現地人の皆さんに大変お世話になりました。そのお礼と自分の経験を生かしたいと思って定年退職を前にボランティア活動を始めました。

YICのスタッフに勤められて、日本語を教え始めたのは2004年4月です。手元の資料を見ますと、現在43人目の学習者と一緒に勉強しておりますが、学習者の出身国は、タイ・カナダ・中国・アメリカ・ポリビア・インド・ブラジル・ペルー・ネパール・フィリピン・韓国・ベトナム・インドネシアなど東南アジアが中心です。

日本語サークルでは、単に日本語を教えるだけではなく、一緒に母国の歴史や文化を話し合い、困りごとの相談を受けたりします。学習の成果が出て、日本語能力検定試験に合格して、その喜びを分かち合う時がやりがいを感じる時です。



中国人学習者カカさん(右)の日本語学習支援をする山下勇さん

県外から引っ越して来て四日市に知り合いが一人もいなかった私に、伊勢志摩サミットのボランティアで知り合った方が四日市国際交流センターの活動を教えてくださいました。

外国人に日本語支援をするボランティアの経験が無く不安でしたが、YICのスタッフの皆さんが親切でしたのでスタートしてみました。

何カ国かの学習者を担当してきましたが、お互いの国の文化などを話しながら進め、私が質問に答えられないときは「今日の私の宿題です」と言って次回答えることもあります。決して“先生”というスタンスではなく、一緒に学ぶつもりで毎回来ています。

テキストの内容の例を挙げるときは、なるべくその学習者のことや文化、前回の学習内容を交えるようにしています。学習者さんが学習内容を自然に使えるようになっていたり、使えたという

話を聞くと、一緒に喜んでしまいます。現在、一人の学習者が12月のJLPTに向けて学習していて、本格的に受験をする方の担当は初めてで、不安や緊張が伝わってくるので、プレッシャーにならないように一緒に進めています。



アメリカ人学習者スコットさん(右)の日本語学習支援をする塚原佳代子さん

2020年の退職を機に、今までの仕事とは関係なく継続できそうなこと、社会と一定の繋がりが持てること等を念頭に色々できそうなことを探していました。そこで思い当たったのが仕事で訪問していた会社で働く外国の人達のことでした。この人達のお役にたてればと思い、探し当てたのが当センターの活動でした。しかし、経験も特別な知識もないため大きな不安はあったのですが、頼もしいYICのスタッフのみなさんに背中を押していただき始めることにしました。

いざスタートしてみると、ここの学習者のみなさんは実に素直でとても優しい人が多く、また仕事がお休みの日に自主的に勉強に来ているだけあって、一生懸命で熱意が伝わってきます。一方で私のことを「先生」などと呼んでくれることには恥ずかしさも覚えています。最初の学習者さんはベトナムから来た方で、今もパートナーと一緒に勉強しています。彼はかなり日本語を話すことができるのですが、日本語の勉強だけでなく会社での顧客との会話や電話対応、会社への提出物の書き方など様々な相

談もしてくれます。

この活動は色々な国々の人達と接する中でそれぞれの国の習慣や物の考え方などを聞くことができ、大変楽しく勉強にもなりますし、日本語を見直すきっかけにもなっています。日本での彼らの生活が少しでも楽しく快適になるよう、その一部分でもある日本語の勉強をこれからも楽しく続けていけたら、と思っています。



インドネシア人学習者ジェフリーさん(左)の日本語学習支援をする前川栄治さん

コロナ禍の2020年、県外から四日市に引っ越してきました。以前は、出張やプライベートで海外に行く機会が多くあり、訪問した国々で現地の方とコミュニケーションを持つことが楽しみの一つでした。四日市でも外国の方と接する機会がないか調べたところ、YICを知りました。日本語教育に関する知識が皆無であり、日本語を教えることに不安はありましたが、そんな私の不安を取り除くように、YICのスタッフの皆様が励ましてくださり、最初の一步を踏み出すことができました。

現在は2名の学習者さんを担当しています。日本に来た目的や日本語レベルは異なりますが、日本語学習に対する意欲の高さは共通しています。学習はテキスト中心に進めつつ、日本の時事問題や季節の話題を取り入れています。また学習者さん自身の経験を日本語で話してもらうように心掛けています。時には仕事や主婦業の悩みについてお互い話すこともあります。私自身、学習者さんから相手の国や文化について多くの学びを得て、成

長できていると実感しています。私と学習者さんとの関係は先生と生徒というより、むしろ互いに学び合う仲間であり、対等な関係であるように心がけています。

これからも日本語学習の伴走者として、共に学ぶ仲間であり続けたいと願っています。またYICでの日本語学習が、学習者さんの日本での夢や目的を実現するための一助となれたなら私にとって望外の喜びです。



ミャンマー人学習者マウンさん（左）の日本語学習支援をする増子理恵子さん

2006年にアメリカから帰国してYIC(当時はYIA)の存在を知り、ボランティアに登録して活動に参加させて頂くようになりました。私自身、アメリカでボランティアの方々に英語だけでなく生活上の問題の解決や情報取得など助けていただき、少しでも自分にできることで恩返ししたいと思ったのがきっかけです。

帰国した当初はアメリカ人の学習者さんでしたが、最近ではアジア、特に東南アジアからの学習者さんが増え、現在はスリランカとネパールからの2名の学習者さんを担当しています。2人とも10代とお若いので伸びが違うなど毎回びっくりさせられます。出会ったときは、平仮名を読むのも難しいと言われていましたが、今はスラスラと読めるようになり、漢字を勉強されています。2人とも日本の高校に進学したいとのことで夜間コースで非常に熱心に勉強されているため、テスト前には数学や理科、社会の質問もされ、私も良い復習になりました。年齢も娘より少し年上ですので親近感がわきますし、中学校で実際に使われている教科書についての質問をされて娘に答えを確認したりと自分の娘との会話も増えてきました。英語で日本語を教えることに娘も興味を持ってくれたようです。

出産や育児でボランティアも暫くお休みしていましたが、自分の経験を活かして子育てについて相談にのったり情報交換したりと、自分のボランティアとしての活動範囲も広がった気がします。今後も学習者さんと一緒に日本語だけでなく伝統や風習を一緒に楽しく学んでいけたらと考えています。



ネパール人学習者チェトリさん（左）の日本語学習支援をする西村裕子さん

若葉マークを胸に新たなボランティア活動の一步を進めて一年となりました。

手話に関わり、聴覚障がい者と接して40数年経過する中で、つくづく日本語の難しさを実感させられることに度々出会いました。

改めて、日本語を学びたいと思っていたところ、外国人学習者に日本語を教える活動を知り、広報で見つけた令和3年度の日本語ボランティア養成講座を受講しました。コロナ禍の中、慣れないズームでのリモート講座に四苦八苦しながらも何とか回数を重ね、修了へとこぎつけました。

早速、YICへ登録させていただき、しばらくしてミャンマーから技能実習生で来日している学習者さんを紹介され、記念すべき第一回目の学習からほぼ毎週1回の学習を重ねて1年になろうとしています。学習者さんの熱心さと真面目さに引っ張られ、毎週の出会いを楽しみに、楽しく学習を続けることができました。

背中にはシニアマークを背負っていますので、いつまで活動できるかわかりませんが、今後も、体力の許す限り活動を続け、国際交流の一端を担うと共に、ここで学んだ「やさしい日本語」を今後の手話の活動にも活かしていきたい、と新たな思いを得た一年でした。



ミャンマー人学習者トンさん（左）の日本語学習支援をする蒔田勝義さん